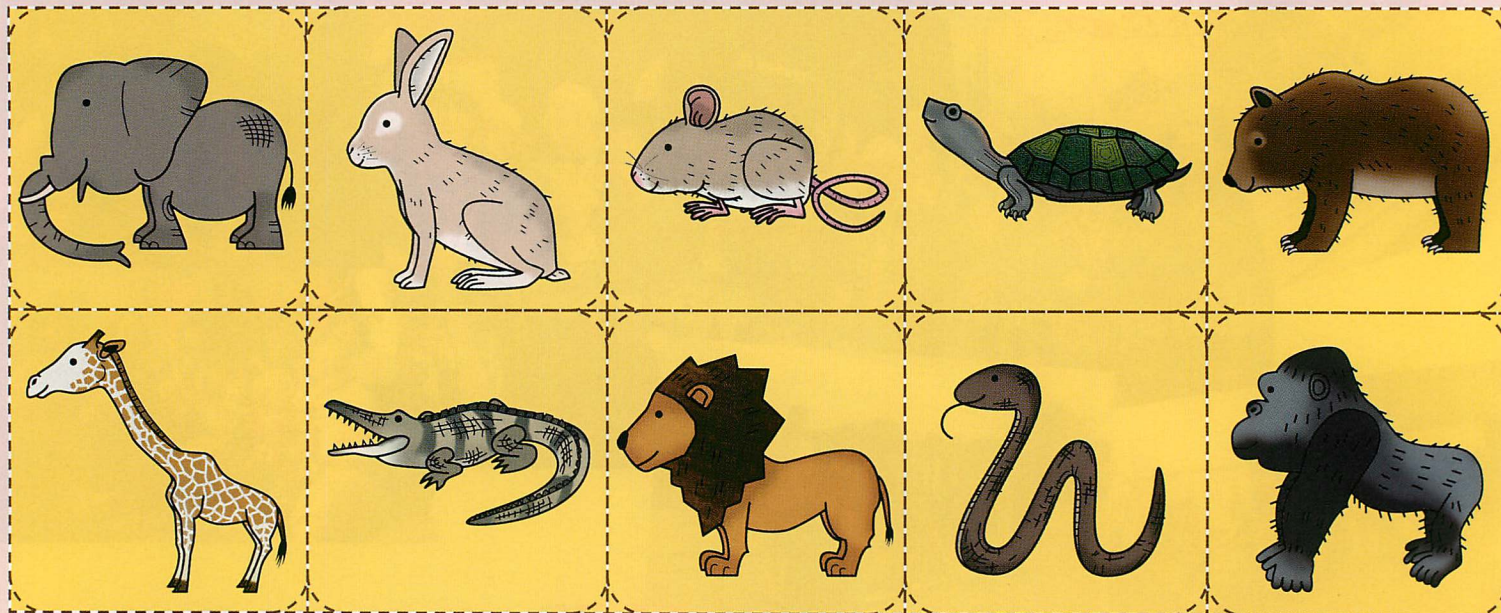


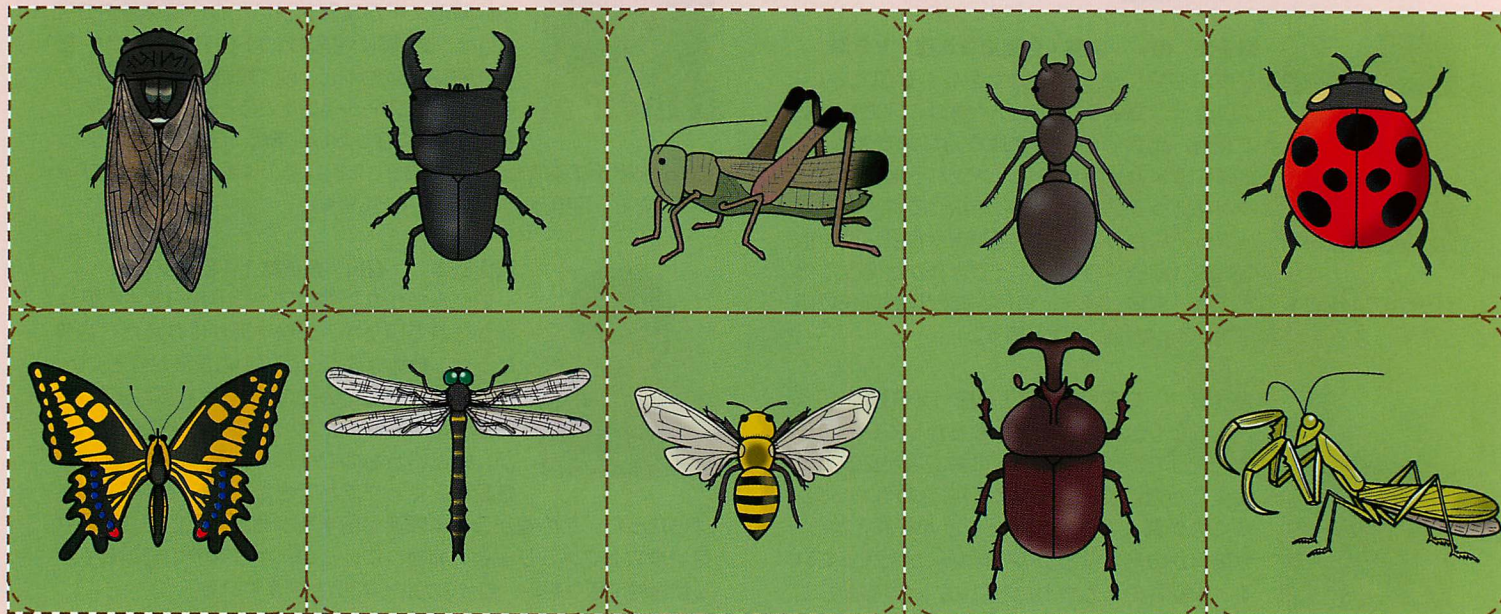
春の野原や森で元気に遊ぼう。

寒い冬も終わりを告げ、植物や動物たちが活発に活動する春になりました。今回は遊びながら「自然と触れ合うゲーム」の特集です。

動物カード

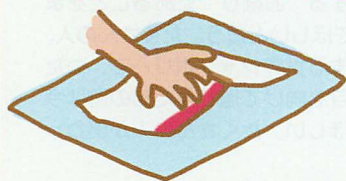


昆虫カード

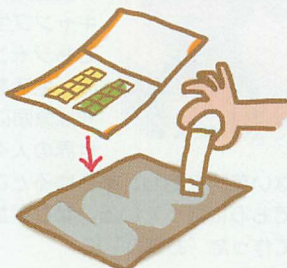


●カードの作り方

①カラーコピーする。
拡大すると使いやすい。



②のりで厚めの紙に貼る。



③ケガに気をつけて
カット。



④ハサミでカードをまるくして
できあがり。



左のカードを使ったゲーム

① 動物交差点 *****

自分の背中につけられた動物や昆虫のカードが何か、他の人に質問して当てるゲーム(左ページのカードを利用してください)。

ゲーム内容

まず参加スカウト分のカードを用意して、指導者がスカウト一人ひとりの背中に本人にはわからないようにカードを洗濯バサミでつけます。参加者は自分以外のカードはわかりませんが、自分の背中のカードはわかりません。そこでゲームがスタートします。他のスカウトに自分が何の動物かいるいるな質問をしながら、自分の背中の動物を当てるゲームです。このゲームにより動物の生態や特徴を学ぶことができます。



ゲーム方法

① ゲームの方法を説明する。

1. 一人に一つだけお互いに質問をする。
2. 質問は、「はい」「いいえ」「わかりません」で答えられる質問にする。
3. 次々に相手を変えて質問する。
4. 動物の特徴の質問をする。

② 全員の背中に指導者が動物カードをつける。

できれば参加人数が多い方(10人以上)が、多くの質問ができて楽しいゲームになる。

③ 指導者の合図で隣の人と質問しあう。

隣の相手と背中のカードを見せ合い一つずつ質問を交し、次々と相手をかえていきます。

④ 答えを誰かに確認してもらおう。

答えがわかったら、指導者に「私は〇〇です」と言って確認してもらいます。「当たり」と言われたら、背中のカードをはずし胸につけます。ゲームは参加者全員が回答するまで続けますが、10分程度でわからない場合は指導者がヒントを与えて回答を導いてあげましょう。

*この方法では難しい場合は、指導者や保護者の方の背中にカードをつけスカウトたちに質問し、背中の動物を当てる方法もあります。参加者の年齢や参加人数によってゲーム方法を工夫してみてください。

② カモフラージュ *****

雑木林や公園の中にロープを張り、そのロープに沿って自然の中から前もって置かれた人工物を探るゲームです。「観察力」が自然に身につきます。

ゲーム内容

林に沿った道の端に20m程のロープを張り、10個程度の人工物をスカウトが見つかることができる範囲で置いておきます。何個セットしたかは教わらずにスカウトたちは、一人ずつロープに沿って探します。お互いに教えあうことや、一度通った道は後戻りできません。ロープの最終地点に到着したスカウトは、指導者に見つけた人工物の数を報告します。全問正解するまでヒントを与えてもらいながら2回繰り返します。

ゲーム方法

① 人工物をセットする。

場所を選定し、指導者がロープを張り、人工物(人が作ったもので、本来自然の中には絶対に無いはずの物)を10個程セットします。

② ルールを確認します。

スカウトは一列に並び指導者がルールを説明します。

1. ロープの中に入ったり、置いてある物に触ったりしない。
2. 人工物がいくつ置いてあるかを一人ずつ数え、最後にゴールにいる指導者に耳打ちして報告する。
3. 走らずにゆっくり歩いて注意深く探すこと。

③ 人工物を探す。

スカウトはお互い話をせずに探し、その数を数え、ゴールにいる指導者にこっそり耳打ちします。「まだあるよ」とか「まだ半分だね」とか多少のヒントを与えられたスカウトは、スタートに戻り再挑戦します。

④ 答え合わせをする。

全員が2回探し終わったら、答え合わせをします。スカウトが見守る中指導者がスタート地点からロープに沿って歩き、何か「人工物」のある所に来たらスカウトたちは「止まれ」と言います。もし誰も気づかなかつたら指導者が教えてあげます。見つけた物を集めて、最後にもう一度数を確認します。

*「人工物」を左の「動物・昆虫カード」に替えてみたり、設定場所に変化をもたせたりすることの工夫で、いろいろなバリエーションを考えてみてください。

*最後に自然界の中で動物や昆虫が自分の身を隠すために「カモフラージュ」することや意味をスカウトにお話してください。このゲームにより自然に対する観察力が磨かれ、スカウトたちは今まで気がつかなかった小さな自然の変化を発見できるようになります。



③ わたしの木 *****

ゲーム内容

森の中に一本だけ、自分の木を見つけるゲームです。

最初はタオルやバンダナで目隠しをしたスカウトが指導者と一緒に木と出会い、目隠しをしたままその木を手で触りながら感じ、次にスカウトは目隠しをとって、想像力を働かせながら再びその木に会いに行くゲームです。普段なにげなく見ていた木々が、目隠しをし「視覚」以外の感覚で直に触れてみる事により、スカウトは木の新たな個性や特徴を発見します。

*目隠しをしても安全に歩けるような平坦な森や公園で40メートル程の範囲の中から大きくて特徴のある木を選びましょう。

*目隠しをしたスカウトを誘導する指導者は「あっ、君の木が向こうに見えてきたよ」などとスカウトの想像力が高まるよう話かけましょう。木の前に来たら、木の肌を触らせたり抱きかかえたり幹のおいをかいてみたりさせ、他の木と区別できるようにその木だけの特徴を教えてください。



④ 目かくしイモ虫 *****

目隠しをすることにより、普段あまり使うことのない「視覚」以外の4つの感覚を使って自然の中を歩いてみよう。効果的にスカウトの自然に対する感覚を高めることができます。

5~6人のスカウトが一列に並び、タオルやバンダナで目隠しをする。目隠しをしたら前の人の肩に手をのせてイモ虫のような隊列をつくる。指導者はイモ虫の先頭の人の手をとって、危険のないようにゆっくり誘導する。近くに木があれば、木の肌や葉を触ったり、葉や土の匂いを試みます。また、指の先で風の方を感じたり、足の裏で地面の感触を感じてみることもよいでしょう。

最後に目隠しをはずしたあと、もう一度同じコースを歩いてみて体験した感触を再確認してみましょう。

*実際に「目かくしイモ虫」で歩いてみると、次は何だろう? という興味がわいてきます。

*指導者は、周囲の自然状態や環境に注意し、絶えず声をかけながらスカウトのイモ虫にいろいろな体験をさせてあげましょう。



参考文献

「親子で楽しむ
ネイチャーゲーム」
著者: 降旗 信一
発行: (株) 善文社

